



浜松商工会議所青年部
YEG Hamamatsu Young Entrepreneurs Group

2023
年度

2023 年度提言書

2023

目次

ごあいさつ.....	2
第1章 防潮堤を活用した交流人口の増加.....	3
1. 現状分析.....	4
2. 着目したポイント及びその理由.....	6
3. 課題の洗い出しと解決のためのストーリー.....	7
4. 提言1-1.....	8
5. 提言1-2.....	10
6. 提言1-3.....	11
第2章 若年層(大学卒業後)のUターン増加による移住人口増加.....	12
1. 現状分析.....	13
2. 着目したポイント及びその理由.....	18
3. 課題の洗い出しと解決のためのストーリー.....	19
4. 提言2-1.....	20
5. 提言2-2.....	22
第3章 留学生の受け入れ増加による移住人口の増加.....	24
1. 現状分析.....	25
2. 着目したポイント及びその理由.....	27
3. 課題の洗い出しと解決のためのストーリー.....	30
4. 提言3.....	31
第4章 まとめ.....	35
まとめ.....	36
あとがき.....	41

ごあいさつ

平素は、浜松商工会議所青年部の活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我々は1985年の設立以来、地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い、地元「浜松」の豊かで住みよい郷土づくりに貢献すべく、地域が抱える様々な課題にフォーカスして政策提言活動を継続実施してまいりました。

その結果、我々の提言内容が、浜松市や浜松商工会議所の活動、或いは民間事業者や各種団体の様々な考え方や施策そのものとして活用されてまいりました。

このことは大変ありがたく誇らしいものであり、光栄の極みではありますが、と同時に、我々の活動の公共性や影響力を強く認識し、より一層の緊張感をもって活動していかなければと感じている次第であります。

さて、今年度の提言活動においてフォーカスした課題は「人口減少」です。本文中でも触れていますが、浜松市は県内大学への進学率が低く、また浜松市内企業への UIJ ターン就職の意識も低いなど、人口流出が多い都市となっています。

その理由は様々ありますが、根本的な原因の一つは「認知度の低さ」であると本提言では指摘させていただいております。

まずは浜松を「知ってもらう」こと、その次には「訪れてもらう」こと、そして「住みたいと感じてもらう」ことが大切であり、その機会創出の施策が今回の提言書には詰まっています。

是非ご一読いただき、浜松市の政策立案の参考にしていただければ幸いですし、民間企業や諸団体の皆様にもそれぞれの活動の一助としていただければと思います。

我々が生活するこの地域が、持続的に発展してくる原動力は「人」であります。人が集い、住まい、多様な人財がそれぞれのフィールドで活躍している、そんな活力溢れる街「浜松」を、皆さんの持つ夢や絆、そして POWER を活かし合い、共に築いてまいりましょう。

結びに、本提言書の作成にあたりご協力いただきました全ての皆様に対し、浜松商工会議所青年部を代表して心より感謝申し上げ、巻頭の挨拶とさせていただきます。



浜松商工会議所青年部
会長 鈴木将孝

人口増を目的とした 3 つの視点からの提言

第 1 章

防潮堤を活用した交流人口の増加

提言1-1 「防潮堤マップ作成&ウォーキング推進」

提言1-2 「新たな門出・再出発の地として聖地化」

提言1-3 「舞阪表浜東駐車場エリアのインフラ整備」

1. 現状分析

(1) 防潮堤の活用をテーマにした経緯

風会議での議論や浜名湖ミナトリングでのアンケートにて、防潮堤についての意見を複数いただきました。せっかくの防潮堤をもう少し活用してはどうか、観光資源化してはどうかという内容でした。これらの意見を受け、我々提言委員会としても防潮堤の活用する事で浜松市の魅力向上や交流人口の増加、将来的な移住者の増加に繋がるのではないかと考え、本テーマを選定しました。

風会議とは

官と民の意見を議論する場がない!場が欲しい!という想いから、官民一体型の意見交換の場として2006年に始めました。

- ・ 中央(官)から地方(民)に風が送られてくるばかりではなく、地方からも風を送り返し、お互いの風通しを良くし地域や日本の活性化を図る
- ・ 風に吹かれるように新しいアイデアを生み出す
- ・ 壁を取り払って風通しを良くしたい

という意味が風会議に込められております。

浜松商工会議所青年部(以下「浜松 YEG という」としては2022年に念願の第1回を開催させていただき、今年度は第2回目として以下のテーマにて議論を行いました。

【交流人口増加】【流出人口の減少】【移住人口の増加】【子育て政策】【外国人材受け入れ】

今年度は全体として80名に参加いただき、浜松 YEG 以外の参加者として、浜松市役所様を中心に27名の方に参加いただきました。



(写真:左) 風会議にて各テーマをテーブル毎に協議する様子

(写真:右) 浜松市の人口増に向けた解決策について協議した内容をプレゼンする様子

(参考資料:風会議より) 撮影:2023年6月29日 風会議 浜松商工会議所にて

浜名湖ミナトリングとは

静岡県土木事務所様の主催で浜名湖ミナトリングが毎年開催されています。浜名湖の夏の魅力を楽しめる官民連携イベントであり、開催目的は浜名湖の知名度向上です。2023年度は浜松 YEG 提言委員会として提言案創出のため、また浜名湖の持つ魅力を現場で感じるため出展しました。



(写真:左) 来場者へのアンケート取得の様子 (写真:中央) ファミリーを対象としたイベント (写真:右) 浜名湖の魅力を PR

(参考資料:浜名湖ミナトリングより) 撮影:2023年7月16日 浜名湖ミナトリングにて

▽風会議の議論の中での意見

- ・ 防潮堤は素晴らしい資源だがあまり知られていないのではないか
- ・ 車でしか見ることがないが、行ってみたい
- ・ もう少し目的地化し、広報活動をすることで観光資源として利用できるのではないか

▽浜名湖ミナトリングアンケート結果

- ・ 防潮堤は時々行くが、きれいなトイレやシャワーがあると使いやすい
- ・ 駐車場の位置が分かりにくく、地図があると分かりやすい
- ・ 行ってみたいと思ったことはあるが、駐車場の位置が分からず断念した
- ・ せっかくの巨大な防潮堤のため、もっと PR をした方がよい
- ・ 観光資源として使えないか

(2) 防潮堤の基本概要

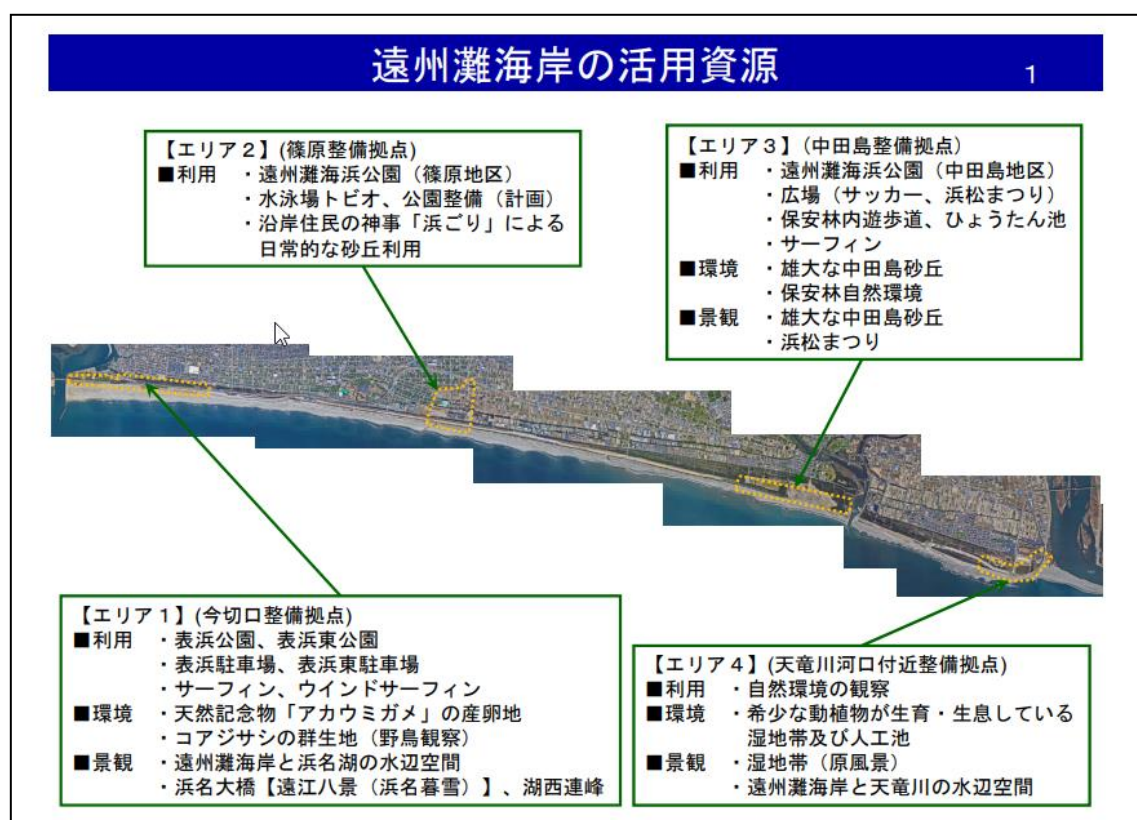
株式会社一条工務店様による300億円の寄付を契機に2012年より整備が始まり、2020年には天竜川河口～浜名湖今切口まで全長17.5キロメートル・高さ15メートルの沿岸防潮堤が完成しました。CSG工法と呼ばれるダム技術により築造されており、この規模のCSG工法による防潮堤は世界的にも珍しいです。

また津波対策の最後の要として2027年度完成目標として馬込川水門を現在整備しており、完成すればレベル2津波(1000年に一回程度の最大級の津波)による宅地浸水が89%減少すると予測されています。

2. 着目したポイント及びその理由

下図の【エリア1】(今切口整備拠点)は最も整備され、国道1号バイパスを走行の際にも目に触れるエリアです。舞阪ビューには整備された無料駐車場(浜松市舞阪表浜東駐車場)があり、休日になれば犬の散歩やウォーキング、サイクリングなどを楽しむ人でにぎわっています。海岸に降りることもでき、サーフィンやウインドサーフィンもすることができます。

また、4月下旬から7月頃までは絶滅危惧種Ⅱ類のコアジサシの営巣期にあたり、野鳥観察を楽しむことも出来ます。

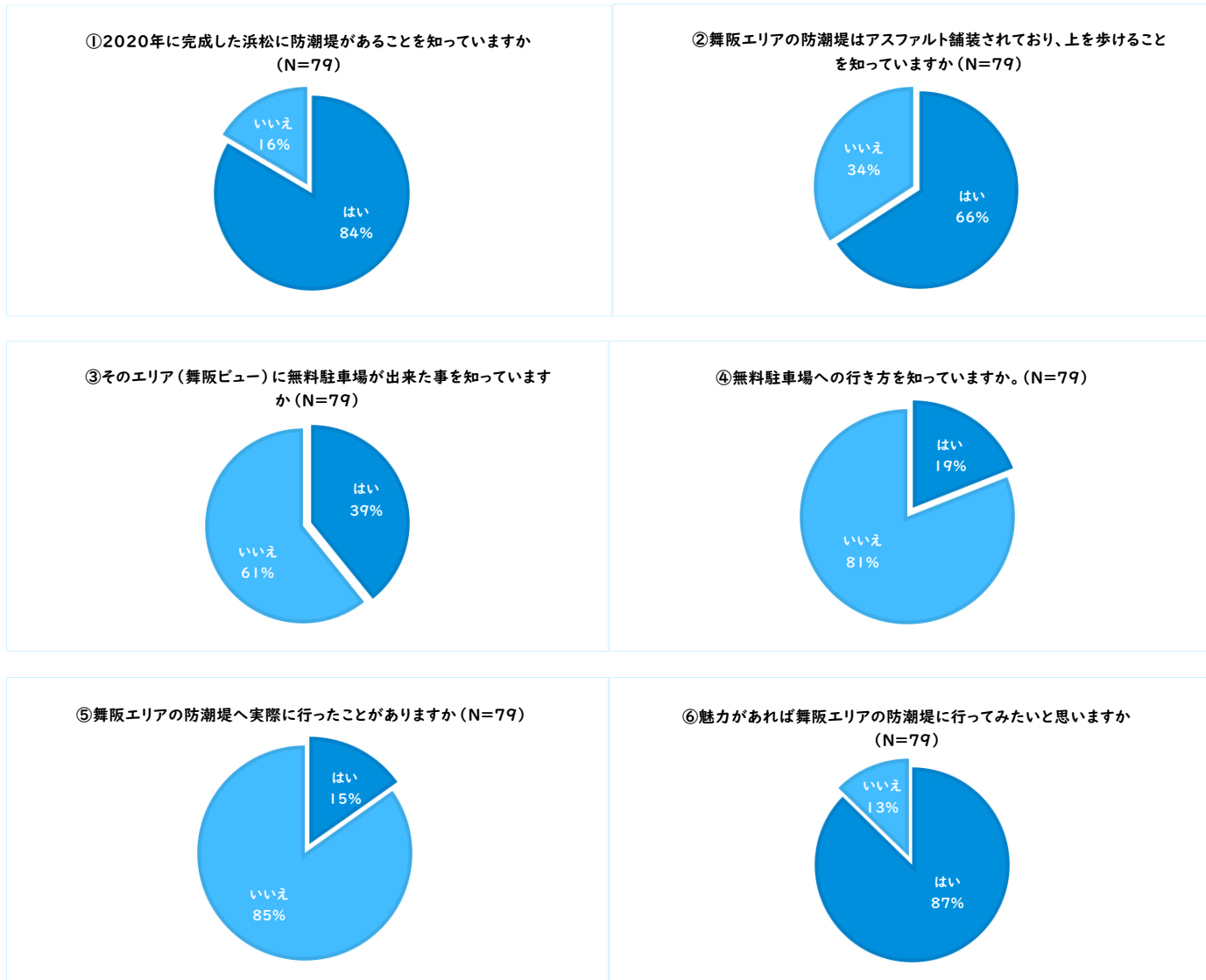


出典:浜松市役所危機管理監危機管理課ホームページより

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/25314/11kaisiryu3.pdf>

我々浜松 YEG として、独自に浜松市民を対象とした防潮堤の認知度に対するアンケート調査を行いました。結果としては、防潮堤について市民の認知度はありますが、目的地としての興味度は低いということがわかりました。防潮堤に興味をもつきっかけを作ることで理解が深まり、浜松の新たな憩いの場・思い出の場になると考えました。浜松市民が防潮堤に親しみを持ち、さらに市外、県外の知人に紹介する流れとなれば、交流人口が増えると考えました。

また現在整備が進んでいる馬込川水門の完成によって、馬込川河口付近もさらに津波発生時の安全性が高まります。防潮堤自体の防災・減災力についての理解が深まる事で、安心安全に住める街としての魅力が高まり、定住・移住の地として選択してもらえる可能性が高まると考えました。



浜松市民を対象としたアンケート調査結果

3. 課題の洗い出しと解決のためのストーリー

(1) 現在の防潮堤を訪れる理由

- ・ 犬の散歩やウォーキングなど
- ・ サーフィン、海岸目的による往来
- ・ サイクリングやツーリングなどでの寄り道

(2) 課題

- ・ 国道一号線からは見えるが、駐車場へのアクセス方法が分からない
- ・ どのような施設やサービスがあるか周知されていないので、目的地となりにくい。

(3) 仮説

- ・ 防潮堤の説明やアクセス方法を分かりやすく伝える必要があるのではないか
- ・ 防潮堤が目的地となるような仕掛けを用意する必要があるのではないか
- ・ インフラ整備による安全性と利便性をあげる必要があるのではないか

4. 提言1-1

以上を踏まえ、防潮堤のアクセス、魅力の発信への取り組みとして

「防潮堤マップの作成&ウォーキング推進」

を提言します。

防潮堤の活用にあたり、今切口整備拠点に着目しました。

このエリアはアスファルトで舗装され、天気が良ければ景色も良く、絶好のウォーキングスポットです。さらに無料駐車場があり、防潮堤に上るアクセスも良く、スロープも整備されているためベビーカーや車いすなどでも防潮堤に登る事ができます。しかし、実際に現地を調査したところ、駐車場に行くための案内看板がなく分かりづらいなどの課題が見つかりました。

そこで防潮堤のアクセス方法や散歩コースの提案、防潮堤の魅力についてのマップを作成することを提言します。

(1) 目的

- ・ 駐車場へのアクセス方法を分かりやすく伝える
- ・ ウォーキングのモデルコースを発信する
- ・ 防潮堤を歩く事での魅力を発信する

(2) 内容

マップにて防潮堤の全貌をわかりやすく伝えます。防潮堤から見える景色の PR や駐車場へのアクセス方法、ウォーキングの所要時間を記載します。実際の距離や所要時間を記載する事で、現地に足を運ぶ人が増えると考えます。同時に後述する聖地化についての案内や、防災に関する情報も記載します。

この防潮堤マップを浜松市のHPや道の駅、近隣の協力店に設置することで観光客への周知に繋がり、交流人口の増加が期待できると考えました。

その他、浜松市としてウォーキングイベントを企画する事も多くの交流人口を呼び込む仕掛けづくりになると考えます。浜松市が令和4年にリリースした「はままつ健幸クラブ」アプリを使う事で浜松市民への周知が可能になると考えます。例えば浜松市舞浜表浜東駐車場をスタートに、西端にて折り返して駐車場まで戻る4kmコースや、さらに舗装された部分の東端まで進み折り返す8kmコースが設定でき、きれいな景色を見ながらの健康増進ウォーキングが企画出来ると考えます。まずは浜松市民が認知し、さらには市外、県外の知り合いに伝えていく流れで交流人口を増やすことができると考えます。

(3) マップ(案)

現地視察と今回の提言案を踏まえマップ案を作成しました。両面、三つ折りにすることで情報量を確保します。今切口に着目した防潮堤の説明に加えて市内の防災体験、防災情報も併せて掲載します。

再スタートの聖地 どんなところ？



【今切口】
自然がつくった陸の切れ目です。浜名湖は、遠州灘と繋がることで汽水湖として生まれ変わりました。

【やらまいか】
浜松市を象徴する方言で、「やってみよう」「やってみようじゃないか」を意味します。

防潮堤の西側は、「今切口」がよく見える場所です。防潮堤に立つと、南はまるで人生の向かい風のように、北は背中を押される風が吹きます。諦めなければいつでも挑戦できます。ここ浜松、出世の街でやらまいか！

防災体験

防災について楽しく学び、体験できる浜松市内の施設をご紹介します。

防潮堤ウォーキング

浜松市防災学習センター (はま防〜家) 一般向け体験講座

浜松市消防局 消防体験センター (消〜けん)

防災情報

防災は「知る」ことから対策ができます。まずは自身の周りについて調べてみましょう。

津波浸水深マップ
防潮堤がない場合、ある場合の津波シミュレーションを見ることが出来ます。
【浜松市 津波浸水深マップ】

静岡県防災アプリ
警報や注意報の通知、一番近い避難所の場所確認、防災のトレーニング・学習など無料で提供されています。

静岡県防災

発行：浜松商工会議所青年部
静岡県浜松市中区東伊場2丁目7-1

浜松市沿岸域防潮堤の案内マップ

防潮堤MAP

え、浜松市にピラミッドあった？

巨大パワースポットがあるんだった

防潮堤MAP

え、浜松市にピラミッドあった？

再スタート = **過去を断ち切る** × **新しい自分**

諦めなければいつでも挑戦できます。出世の街でやらまいか！

過去にうまく行かなかった事や、未練があることなどを断ち切りましょう

磨き完成・良縁・合格祈願に。実現した未来を想像しましょう。

P 浜松市舞阪表浜駐車場(有料)
※トイレあり ※防潮堤に上がるための整備された歩道なし

P 浜松市舞阪表浜東駐車場(無料)
※トイレなし ※防潮堤に上がるための整備された歩道あり

出入口
「階段」のほか「スロープ」もあります。歩行者に注意して、自転車も走行可能です。

パワースポット

浜名湖

約2km 歩くと片道約25分程度

約2km 歩くと片道約25分程度

今切口
遠州灘

高さ約15m 長さ約17.5km

※この防潮堤MAPは、防潮堤の西側約4kmのMAPです。

巨大パワースポット に行ってみよう

再スタートのお作法

過去を断ち切る 新しい自分

【順番】

1. 防潮堤の西端に行く
2. 南(海側)を向き過去を断ち切ります
3. 北(陸側)を向き新しい自分を願います

景観・ウォーキング

遠るものがなく一面に広がる水平線は、心が洗われます。パワースポットへ歩く前に心を落ち着かせましょう。

交通アクセス

新町 坪井町

東海道 49 301 65

1 浜名バイパス 坪井IC

P 浜松市舞阪表浜東駐車場

QRコード

・駐車台数100台前後
・QRコードを読み込むと場所確認と案内が可能で便利です。
・24時間利用可能です。(今後変更の可能性もあります)

(上側:表面、下側:裏面)

5. 提言1-2

次に防潮堤を魅力ある目的地とする取り組みとして

「新たな門出・再出発の地として聖地化」

を提言します。

本防潮堤は、世界的に見ても珍しい巨大な防潮堤です。実際にその場に立つと誰もがその迫力に圧倒されます。西端では浜名湖や浜名バイパスの浜名大橋の景観を楽しむことができます。この素晴らしさを伝え、さらに認知度を高めるためには、防潮堤に来る新たな目的作りが有効であると考えました。

そこで防潮堤最西端の聖地化を提言します。

(1) 目的

- ・ 聖地化することにより、認知度の向上
- ・ パワースポットのような認識を作る

(2) 内容

防潮堤とは本来、地上に逆流してくる波を防ぐ、波を断つ、という意味をもつ建造物です。本来防潮堤がもつ意味合いと、「今切口」というユニークな地名をかけあわせて、「過去を断ち切る場所」という意味を持たせて聖地化することで、魅力のあるスポットとして PR していくことが可能ではないかと考えました。新たなスタートを迎えるにふさわしいパワースポットとしてブランディングすることができれば、浜松市としての観光資源の目玉のひとつになり得ると考えます。

例えば京都の観光名所である安井金毘羅宮では悪縁を切って良縁を結んでくれるご利益があるパワースポットがあります。縁切り縁結び碑をくぐれば願いが叶うという言い伝えがあり、古い縁を断ち切りたい人だけでなく、新たな縁を求める人たちにも大変人気のスポットです。このようなブランディングができれば話題性もあり、遠方からの観光客の増加も大幅に期待が出来ると考えます。具体的な施策を以下に提案します。

触れるとご利益があると言われている通天閣の「ビリケンさん」のように、防潮堤の西端に家康君の像を設置し、触るとご利益があると訴求することで人々が触りに訪れるような仕掛けを作ります。

例えば駐車場から西端までの往復4kmの距離は歩く約50分かかるため、時間を掛けながら自分を見つめなおす機会とします。西端では家康君に見守られながら、南側に向かって願うことで過去を断ち切り、北側に向かって新しい自分を願う事で希望が叶うといったストーリーを作ります。縁起よく新たなスタートを切って将来的に「出世する(希望が叶う)」というストーリーは、起業しやすい都市としてのアピールにも繋がると考えます。

このような「聖地」という仕掛けを作ることにより、防潮堤が魅力ある存在として認知され、かつ観光の目的地の一つになると考えます。



(写真:左) 安井金比羅宮の縁切り縁結び碑(いし)



(写真:右) 金の家康くん像

出典:「安井金比羅宮の縁切り縁結び碑(いし)」そくだ京都、行こう。より

<https://souda-kyoto.jp/guide/spot/yasuikonpiragu.html>

出典:「金の家康くん像」浜松市ホームページより

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/25314/11kaisiryu3.pdf>

6. 提言1-3

最後に防潮堤を訪れやすくする施策として

「舞阪表浜東駐車場エリアのインフラ整備」

を提言します。

現在は駐車場が無料で開放されていますが、トイレや水道がありません。自動販売機やごみ箱もなく、長時間の滞在が困難です。これらのインフラ整備は観光地として多くの人にPRするためには必要不可欠と考えます。

そこで舞阪表浜東駐車場のインフラ整備を提言します。

(1) 目的

- ・ トイレ、水道の設置
- ・ ごみ箱、自動販売機の設置
- ・ ブランディングのためのモニュメントの設置

(2) 内容

トイレや水道を設置することにより長時間の滞在が可能となり、目的地として選ばれる可能性が高まります。また水道の設置をすることで気軽に裸足になって砂浜で遊ぶことができるようになり、ファミリー層も安心して遊びに来ることができると考えます。

さらに観光地としてブランディングするために舞阪ビューに来た記念になるようなモニュメントがあれば宣伝効果も大きくなると考えます。



(写真:左)豊橋市・表浜海岸



(写真:右)港町・神戸メリケンパーク

出典:表浜海岸フォトコンテスト2020

<https://www.honokuni.or.jp/toyohashi/topics/?Mode=detail&code=812>

出典:FUN TRIP「港町神戸メリケンパークの「BE KOBE」モニュメント!」

<https://haveafuntrip.com/?p=4688>

人口増を目的とした 3 つの視点からの提言

第2章

若年層(大学卒業後)の U ターン増加による移住人口増加

提言2-1 「浜松ローカル版キツザニア」

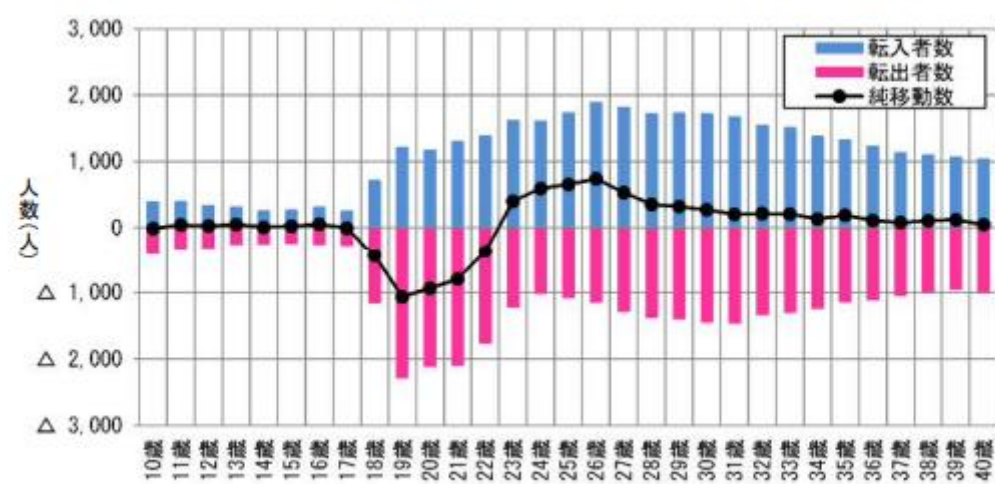
提言2-2 「母校に集まれ!企業説明会!」

1. 現状分析

(1) 大学進学時の人材流出の状況について

浜松市の若年層の転出入の状況を見ると、17歳まではほぼ転出していませんが18歳から22歳までの転出が最も多くなっています。これは大学進学に伴い、市外及び県外へ流出していることが考えられます。

図表 I-21 若年層の年齢1歳階級別の転出入の状況 [男女計]



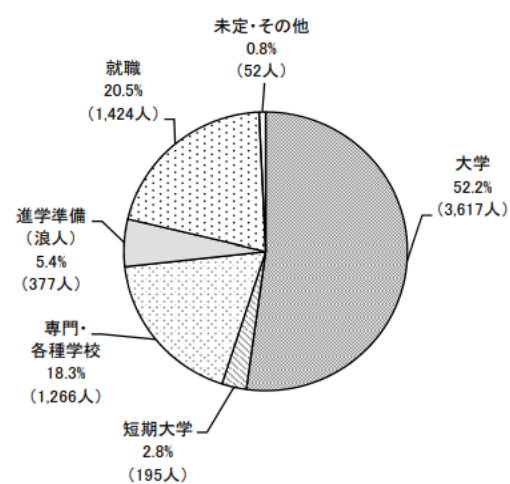
(資料) 総務省「国勢調査」を基に作成。

出典:浜松市「やらまいか人口ビジョン」図表 I-21 より

実際にどの程度流出しているかについて令和4年度の浜松市の調査『UIJ ターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務』を参考に調査をしました。図表1の通り、浜松市において2021年度の高校の卒業生数は6,931人となり、大学・短期大学・専門学校まで含めた進学者数は5,078人(全体人数の73.3%)、大学進学者数は3,617人(全体人数の52.2%)となっています。図表3-1の通り、静岡県内の大学に進学した人数は884人(全体人数の25.3%)となっています。静岡県全体としての県内大学への進学率が2021年時点で約30%に対して、浜松市は相対的にさらに低い県内進学率となっています。

●令和3年度卒業生の進路別人数

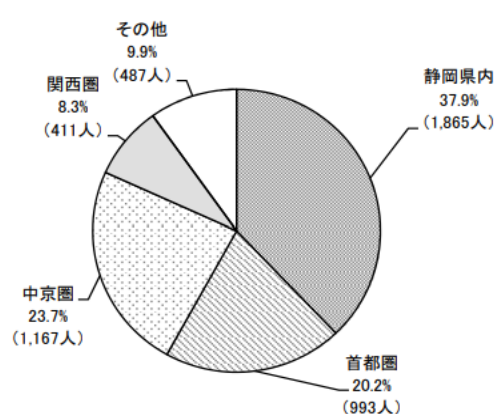
図表1 進路別の割合



(全体数 6,931人)

●令和3年度「大学」「短大」「専門・各種学校」に進学した人の進路先

図表2 進学先の地域別の割合



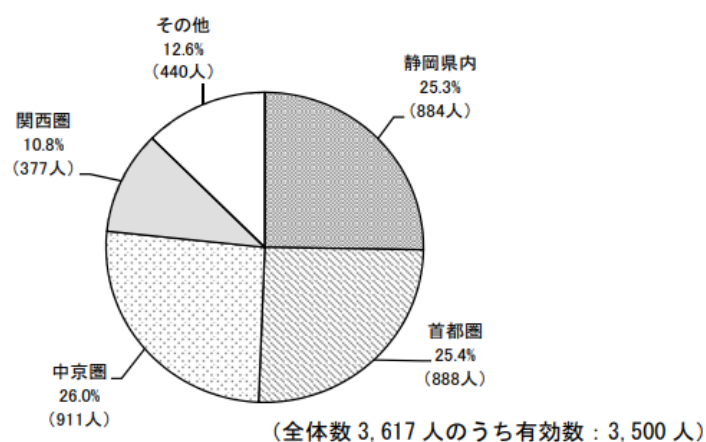
(全体数 5,078人のうち有効数: 4,923人)

※首都圏は、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、中京圏は愛知県、岐阜県、三重県、関西圏は大阪府、京都府、兵庫県とする。
※集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回収比率の合計は100%にならない場合がある。

●令和3年度卒業生の進学先

➤ 大学へ進学した地域別の割合をみると、「静岡県内」(25.3%)、「首都圏」(25.4%)、「中京圏」(26.0%)、「関西圏」(10.8%)、「その他」(12.6%)となっている。

図表3-1 「大学」へ進学した地域別の割合・人数



(全体数 3,617人のうち有効数: 3,500人)

※各高校には進学者数が多い上位10校の回答を求め、地域別に上位5校を表に示した。

図表3-1-1

静岡県内の大学

大学名	人数
常葉	246
聖隷クリストファー	172
静岡	128
静岡理工科	63
静岡産業	35

図表3-1-2

首都圏の大学

大学名	人数
日本	32
東海	26
中央	19
早稲田	17
日本体育	14

図表3-1-3

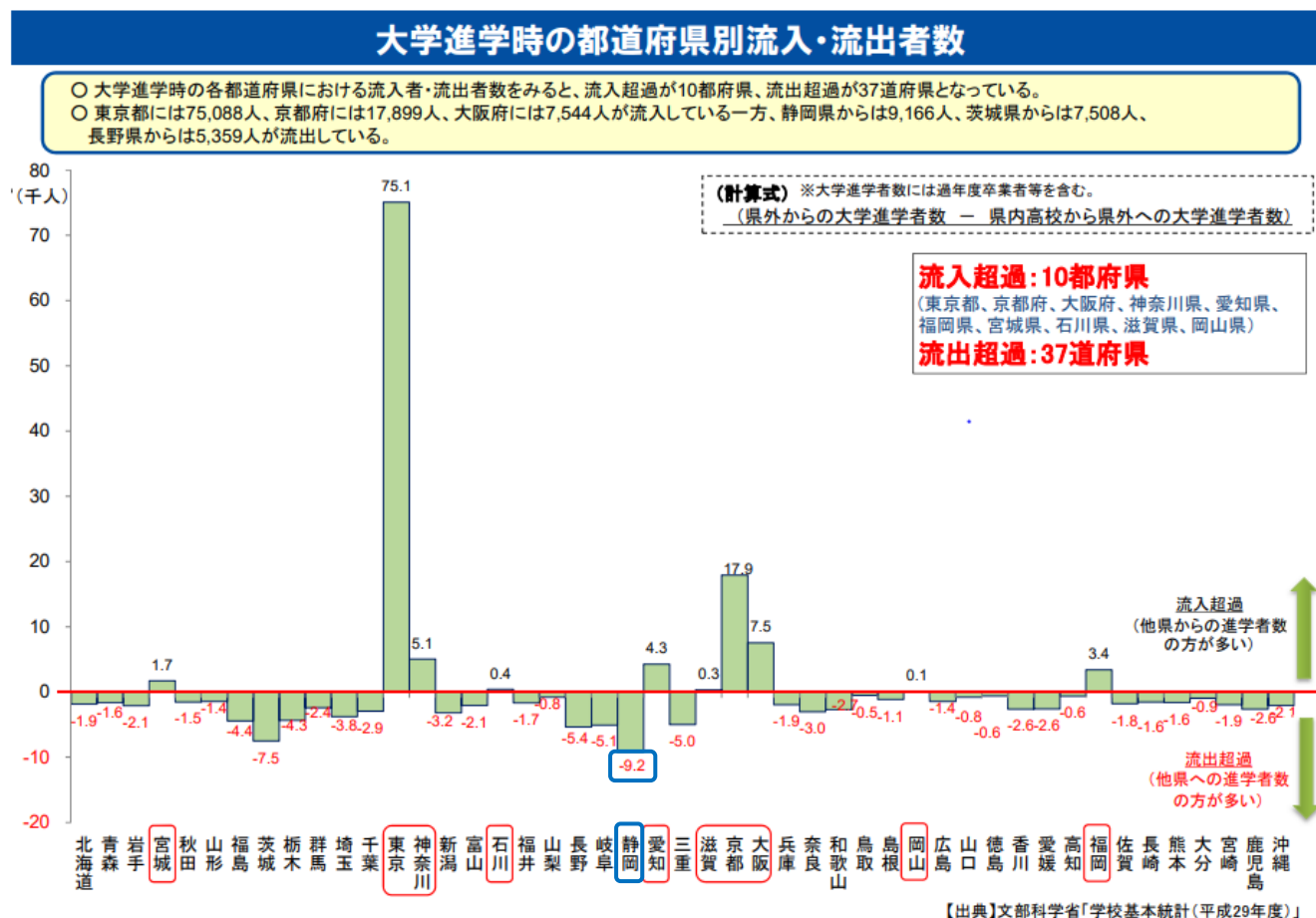
中京圏の大学

大学名	人数
愛知	69
愛知学院	65
中京	60
名城	50
名古屋	39

出典:浜松市“UIJ ターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務完全版”P.6-P.7 図表1、図表2、図表3-1より

また平成 29 年のデータとして、以下のグラフの通り静岡県は大学進学時に全国で最も流出超過している県となっており、平成 29 年には約 9200 人が流出をしています。

上記より、静岡県全体としても流出超過が続いていますが、浜松市は特に流出が多い都市であると考えられます。

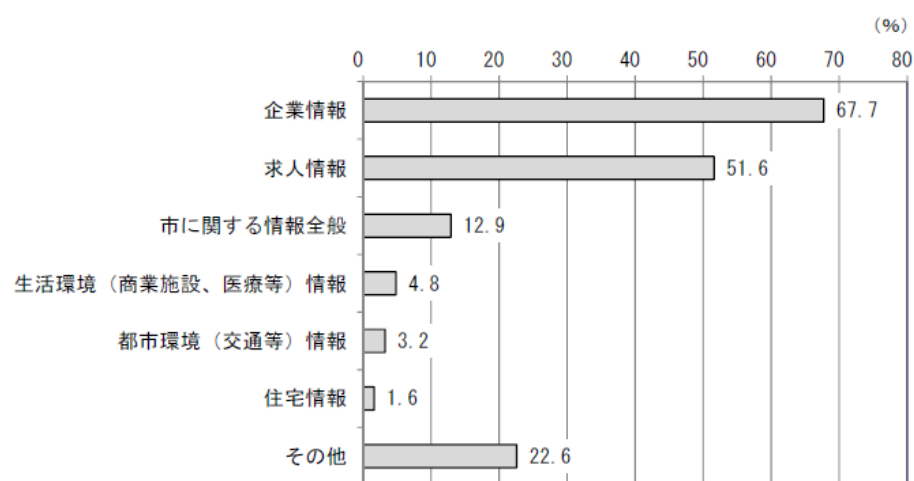


出典:2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)(mext.go.jp)より

(2) 県外大学に対するアンケート

県外大学が在籍する学生に対して浜松市の企業への就職を勧めるにあたり、不足している情報の第 1 位は「企業情報」となっており、次いで「求人情報」となっています。県外大学において浜松市の企業情報が伝わっていないと考えられます。

図表 4 就職支援の際に不足している情報(複数回答)



(全体数: 62 校)

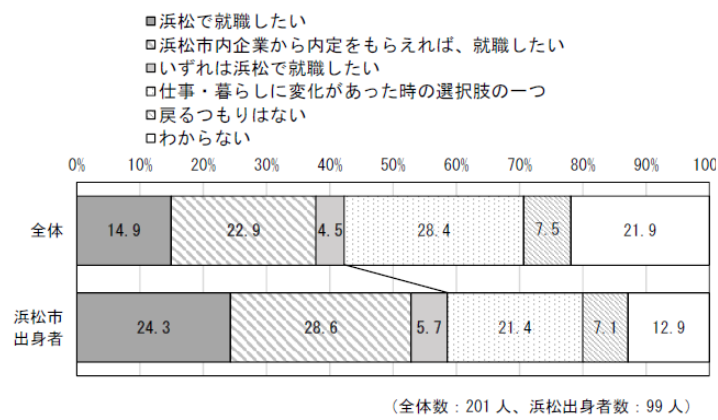
出典:浜松市「UIJ ターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務完全版」P.22 図表 4 より

(3) 大学生に対するアンケート

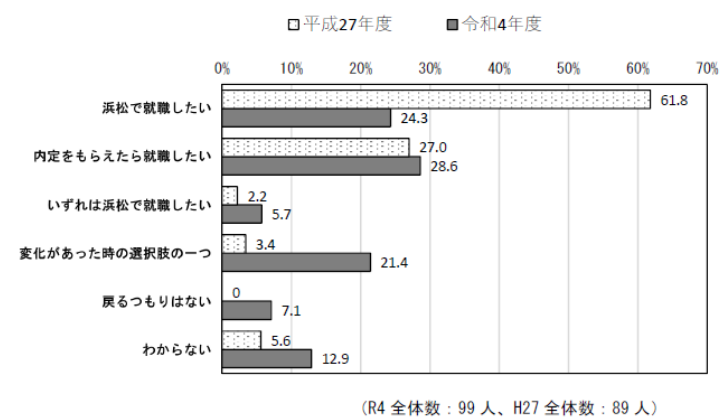
浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生を対象としたアンケートによれば、浜松市出身者の内、24.3%が「浜松で就職したい」と考えており、「内定をもらえれば」や「いずれは」を含むと、58.6%の学生が浜松で働くことを意識している結果でした。

ただ、前回調査(平成27年度)と比較すると、「浜松で就職したい」と考える割合は61.8%から▲37.5%となっており、時代の経過とともにUターン就職への意識が薄くなってきていることが確認できます。

図表7-3 UIJターン就職意向(浜松市出身者)



図表7-4 UIJターン就職意向(浜松市出身者・経年変化)



出典：浜松市“UIJターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務完全版”P.40 図表7-3、図表7-4より

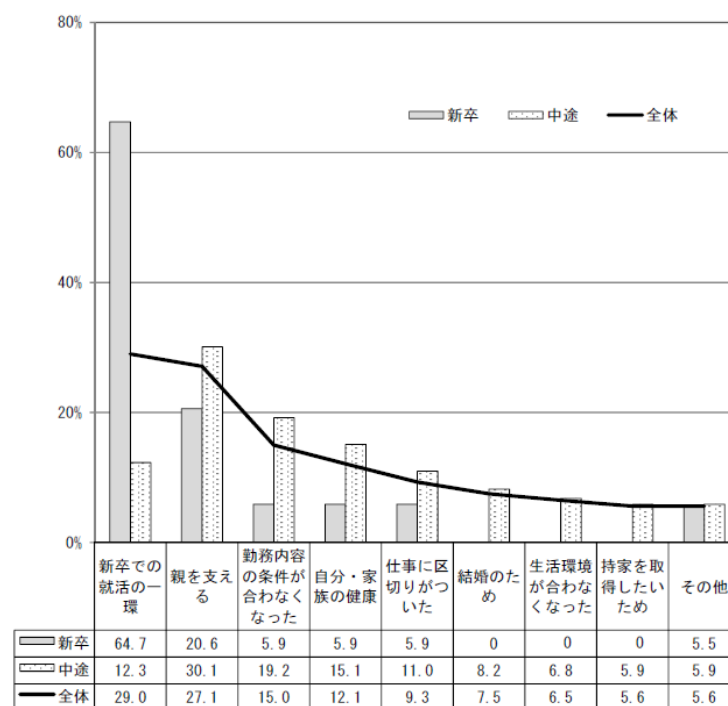
(4) UIJターン経験者によるその理由

下のグラフはUIJターン経験者による理由をまとめたものです。

中途採用の場合、「親を支えるため」「自分・家族の健康」「結婚」等、家庭の事情が多くを占める中、新卒採用の場合は圧倒的に「就活の一環」となっています。

つまり、浜松で就職したい学生は「就職活動」を通じて「どこ(企業だけでなく、勤務エリア)」で働くかを決めている傾向があると考えられます。

図表5-2 UIJターン就職を行った理由(採用区分別・複数回答可)

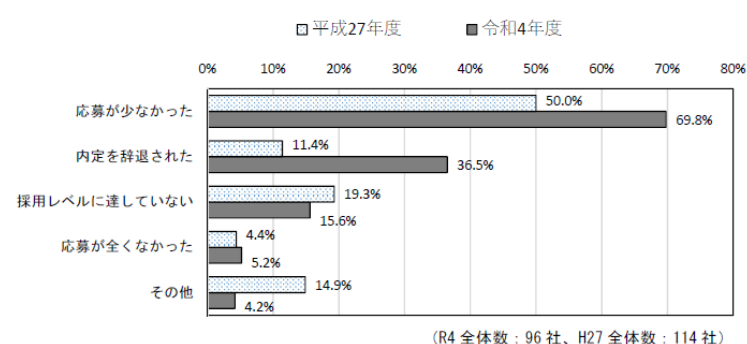


出典：浜松市“UIJターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務完全版”P.49 図表5-2より

(5) 浜松市内企業に対するアンケート

浜松市内企業を対象としたアンケートによると、新卒者が充足できなかった理由の第1位は「応募が少なかった」69.8%となっており、「応募が全くなかった」と合わせると70%を超えています。

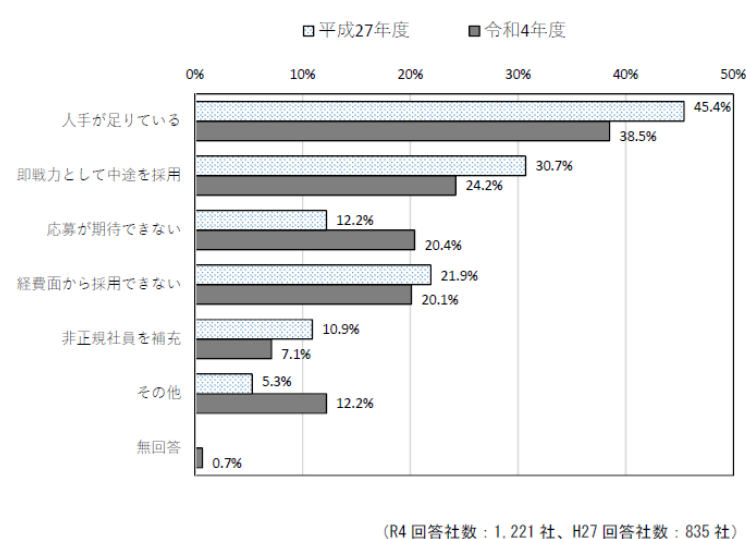
図表 8-1 新卒者が充足しなかった理由（複数回答）（経年変化）



出典：浜松市“UIJ ターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務完全版”P.72 図表 8-1 より

また、新卒者採用を予定しなかった企業におけるその理由では、第3位に「応募が期待できない」があり、これは前回調査（平成 27 年度）と比較すると、12.2%から20.4%へ8.2%上昇となっており、人口減による若い人手不足を顕著に表していると考えられます。

図表 11-1 新卒者採用予定がなかった理由（複数回答）（経年変化）



出典：浜松市“UIJ ターン就職促進に関わる企業、高校大学等実態調査業務完全版”P.77 図表 11-1 より

2. 着目したポイント及びその理由

上記調査より浜松市内の企業は新卒者採用をしたいと考えていますが、募集をしても応募が期待できないと考えている事が分かります。一方で浜松市出身者の過半数は浜松で働きたいという希望をもっている事もアンケートより読み取れる事から、企業情報、就職情報を適切なタイミングで的確な情報を伝える事で、このミスマッチを解消し、浜松市の企業へのUターン就職を増やすことが出来ると考えました。2023年6月29日に行われた浜松風会議においても県外の学生に自社をPRする課題として以下の意見が上がりました。

<風会議での意見>

- ・県外に進学した学生に対して企業情報をPRすることは非常に難しい
- ・浜松市での合同企業説明会に県外に進学した学生があまり来ない
- ・浜松市としても県外の学生に浜松市の良さをPRしてほしい
- ・合同企業説明会は出身大学単位や大学の所在地単位で行われることが多いため浜松市に戻ってこない

学生と企業との「情報不足」を解消し、学生に対して浜松市内企業の「仕事内容や魅力」を伝える場の提供が必要であると考えます。

3. 課題の洗い出しと解決のためのストーリー

(1) 現状のまとめ

- ・ 浜松市で育った高校生は進学等のため、その多く(約 60%強)が県外へ流出してしまう
- ・ 就職先を進学先地域の企業を軸とする傾向が強い
- ・ 浜松市内で就職したいと思う人も一定数いるが、情報不足により行動に移りにくい
- ・ 浜松市の企業も人手不足を感じており、若い労働力確保の必要性を感じている

(2) 課題

- ・ 浜松市内にどのような仕事があるか、どんな会社があるかを知る機会が少ない
- ・ 学生にとって自分がやりたい仕事があるかが伝わっていない
- ・ 浜松市の特に中小企業の認知度が低く、学生にとってはどうしても大手志向になる傾向が強い

(3) 仮説

- ・ 適切な時期に的確な情報を伝える事で浜松市の企業に対する認知度が向上するのではないか
- ・ 小・中・高・大学生の各段階において「情報不足」を補うための包括的な施策が必要ではないか
- ・ 浜松市内の企業への興味、関心、愛着、親近感を高めることで将来的な U ターン就職増加へ繋がるのではないか

現在浜松市で官民合わせて行われている U ターンに関する施策を以下にまとめました。高校生に対しては既に多くの施策を行っている事から、今回は比較的手薄な小中学生及び直接的に U ターン就職に繋がる大学生等に対して施策を考えました。

小学校	中学校	高校	大学等
・浜松みらいっこ		<ul style="list-style-type: none"> ・定時制高校マッチング会 ・フィールドスタディ (マイナビ locus) ・未来ビュー浜松 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内合同企業説明会 ・大学と企業との情報交換会 ・インターンシップ情報発信 ・JOB はま! ・就職寄り添い相談
	・社長の特別授業 (計画中)		
・企業PR動画制作・配信			

4. 提言2-1

以上を踏まえ、私たちは小中学生への将来の U ターンのきっかけづくりの取り組みとして

浜松ローカル版キッズニア

を提言します。

キッズニアとは職業体験を味わう事ができるテーマパークです。

子どもたちは「仕事を体験する」を通じ、職種、仕事内容、企業への理解や親近感を持つといった、大人の世界を体験する貴重な経験ができます。ただ、パビリオンは基本的には全国展開する大手企業、ナショナルチェーン企業が中心となり、地方都市のローカル企業がこの場で出展や PR をすることは困難です。

「浜松ローカル版キッズニア」とは、浜松市内の企業で構成し、各社がアイデアを持ち寄り、地元浜松キッズたちに「働くこと」を体験してもらう場と機会の提供を行う事業です。つまり、浜松市オリジナルの「子ども向け職業体験テーマパーク」の開催です。

(1) 目的

- ・ 興味のある仕事を知り、将来の進路について考える機会の創出
- ・ 地元浜松市に魅力あふれる会社が多く存在することを PR し、郷土愛を育むとともに将来の U ターン意欲を喚起

(2) 内容

- ・ ワークショップ
- ・ 職業講和
- ・ 職場見学ツアー
- ・ 地元企業の職業図鑑

(3) イメージモデル

浜松 YEG では、2019 年 10 月 20 日に可美総合センターにて全体事業「ターニングポイント of ハママツノミライ」と称して浜松在住の中中学生を対象とした合同企業説明、体験会を企画・運営しました（参加者 117 名）。各企業がブースを設け、業種や業務内容の魅力を説明するとともに、ワークショップや企業訪問を行い、参加いただいた皆様から大変好評をいただきました。その後の人生における一つのターニングポイントになることを目指した企画でしたが、浜松 YEG 単体では単年度事業となってしまう、より多くの学生、世代に継続的に体験してもらうことができない点が課題となりました。



上写真) 可美総合センターにて地元企業がパビリオンとして出展し、浜松内在住の中中学生がワークショップ体験をする様子



(5) ポイント

このようなイベントを継続的に開催することで、より多くの世代に地元浜松市の企業での仕事内容や企業情報をPRでき、子どもたちの将来における浜松市への回帰のきっかけになるのではと考えます。

また、「実際に体験」してもらうことで、浜松市にもこれだけの種類の仕事があり、熱い思いを持った魅力的な会社が存在することを”楽しみながら”知ってもらう機会となるのではと考えます。

(6) 要望

「浜松市」による主催事業として、市内在住の小中学生は誰でもこの「浜松ローカル版キッズニア」を体験できる環境を構築してもらいたいと考えます。

浜松市内の小中学校との連携や、浜松市が主催する事業であるということが、参加者と参加企業に安心感を提供し、ブランディングの側面においてもその効果・インパクトは非常に大きいと考えます。



「浜松ローカル版キッズニア」のイメージ

5. 提言2-2

続いて大学生向けの直接的なアプローチとして

「母校に集まれ!企業説明会!」

を提言します。

浜松市には優良で元気な中小企業が数多く存在します。ただ認知度が高い企業は別として、中小企業のほとんどが就職活動を行う大学生に認知されていない実情があります。

東京、大阪、名古屋等といった都市部でなくても、大企業でなくても、魅力的な地元の中小企業で活躍できるチャンスは多いという想いのもと、浜松市出身の現役大学生に向けた「母校」を舞台にした「企業説明会」の開催を提案します。馴染みのある仲間、環境、地域で浜松市の企業の良さを再発見してもらいたいと考えます。

(1) 目的

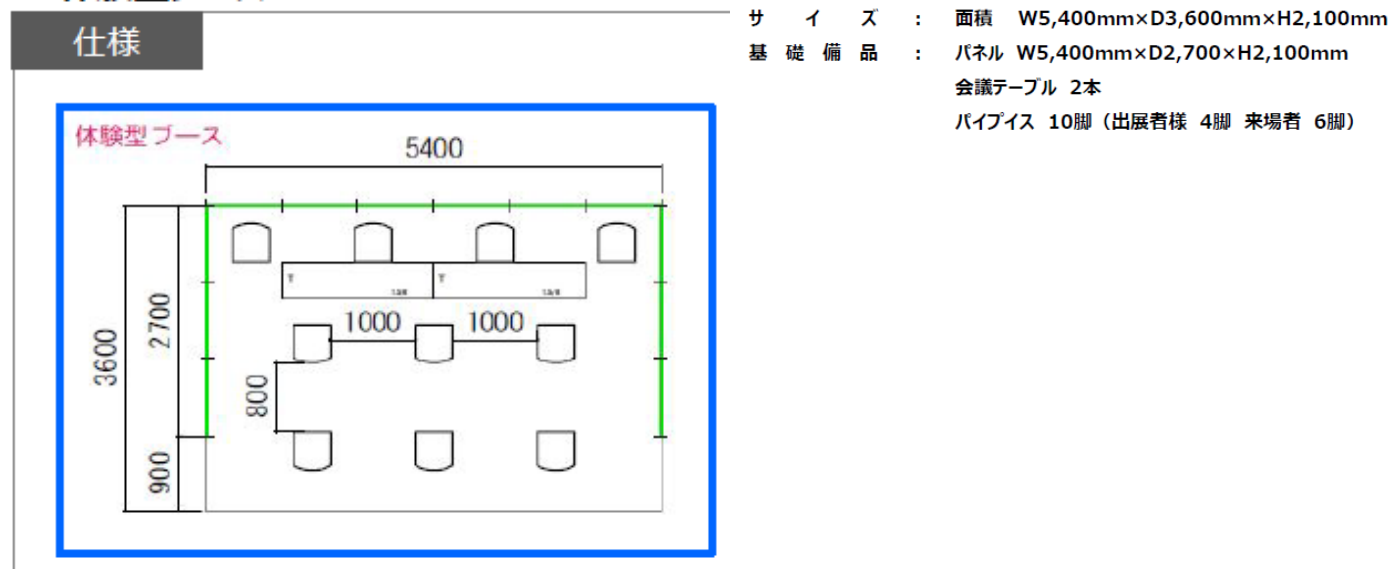
- ・ 職業に対する理解を深め、興味のある仕事や浜松市の中小企業を知る機会の創出
- ・ 大学1、2年生のタイミングで将来の進路について考える機会の創出
- ・ 地元浜松市にも魅力あふれる中小企業が多く存在することを知り、Uターンのきっかけの創出

(2) 内容

① 概要

合同職業体験セミナーを実施します。会場は「母校の」体育館等の校内を想定しており、「未来ビュー浜松」のような体験型ブースをイメージしています。

■ 体験型ブース



② 実施時期

1月の成人式の前後か、3月の春休み期間の卒業生が浜松市に戻ってきやすいタイミングが理想的な時期だと考えます。

③対象

高校単位での開催とし、開催高校を卒業生した大学2年生を主なターゲットとします。大学2年生の春休み前に浜松市の企業を知ってもらう事で、大学3年生時の夏のインターンシップやその後の面接に繋げてもらいたいと考えます。また開催高校の卒業生であれば年齢を問わず(大学1年生でも大学の卒業生でも可)、参加できることとします。また在校生も参加できることとします。

④意義

- ・ 企業にとっては一人でも多くの卒業生に浜松市の企業を知ってもらい、浜松市での就職を検討してもらう機会とする
- ・ 卒業生にとっては卒業後数年後に同級生と再会するきっかけとなり、絆を深める機会とする
- ・ 在校生にとっては高校生の早い段階より、浜松市の企業を知ることで郷土愛を育む機会とする
- ・ 在校生にとっては卒業生と間近に触れる事で、数年後の自分自身を想像することができる機会とする

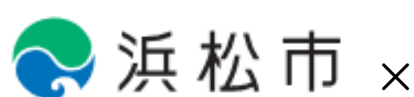
(3)ポイント

高校単位で開催することで、県外大学へ進学した卒業生が同窓会感覚で母校を訪れる機会となります。同級生達との再会を通じて、情報交換をしながら将来について考えるきっかけを作ることが出来ると考えます。高校の協力を得ることで、高校内の施設(例:体育館)を使用させていただき、会場費等の費用負担を抑えることができると考えます。

この事業の企画書を静岡県立浜松西高等学校様へ持ち込み、ヒアリングを実施しました。その結果、卒業生と一緒に在校生も参加することができれば、将来の進路について身近に考える機会となるため、大変意義のある事業である、と学校側からも高い評価をいただきました。まずはモデルケースとして1つの高校で実施し、さらに開催する高校を増やしていく事が重要だと考えます。数多くの高校が参画する事で県外に一度流出した学生に対して浜松市の企業を周知する機会を作ることが出来ると考えます。このような体験を毎年定期的で開催することで、より多くの浜松市内の高校を卒業した大学生に対して、浜松市にもこれだけの種類の仕事があり、熱い思いを持った魅力的な企業が存在することを知ってもらう機会になると考えます。

現在浜松市では就職活動にかかる交通費や宿泊費の負担を減らすために「UIJ ターン就職活動応援補助金」という制度があります。本来は合同企業説明会には使えませんが、本事業を浜松市と共同開催することで、ぜひこの事業にも適用していただきたいと考えます。交通費や宿泊費への補助がある事で参加する学生数の促進にもつながると考えています。

「母校に集まれ!企業説明会!」は、2年程度で結果が見えるため即効性があると考えます。まずは既にヒアリングをさせていただいた静岡県立浜松西高校にて実施させていただき、ぜひ浜松市、浜松商工会議所青年部が一体となって事業を継続したいと考えます。



人口増を目的とした 3 つの視点からの提言

第3章

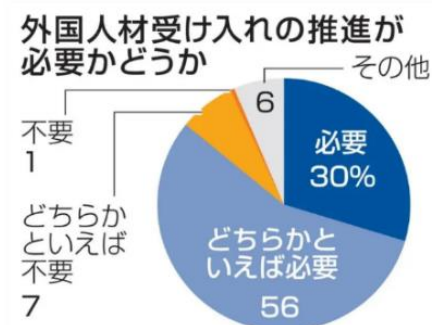
留学生の受け入れ増加による移住人口の増加

提言3 「外国人留学生支援 No.1都市宣言」

1. 現状分析

(1) 外国人材の受け入れの必要性について

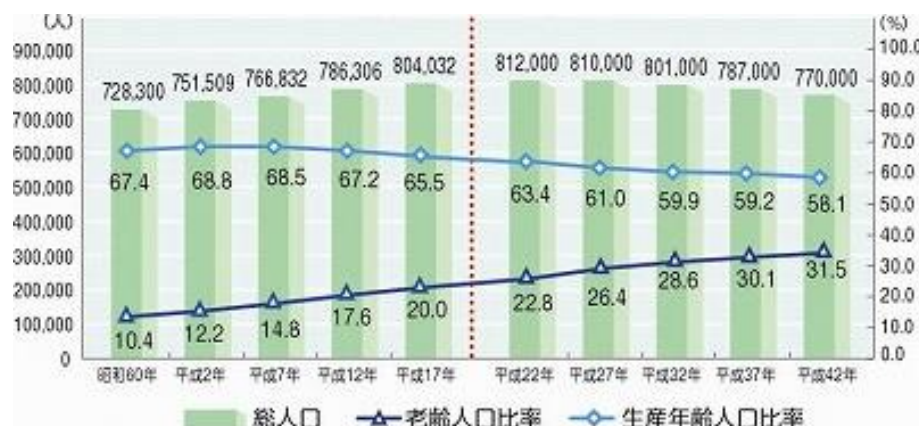
日本では労働者不足や人出不足が問題となっています。2023年に一般社団法人共同通信社が全国の自治体首長を対象に行った人口減少問題に関するアンケートでは、86%の自治体において外国人材の受け入れを推進する必要があると答えています。



出典：一般社団法人共同通信社より

https://news.goo.ne.jp/article/kyodo_nor/politics/kyodo_nor-2023091601000942.html

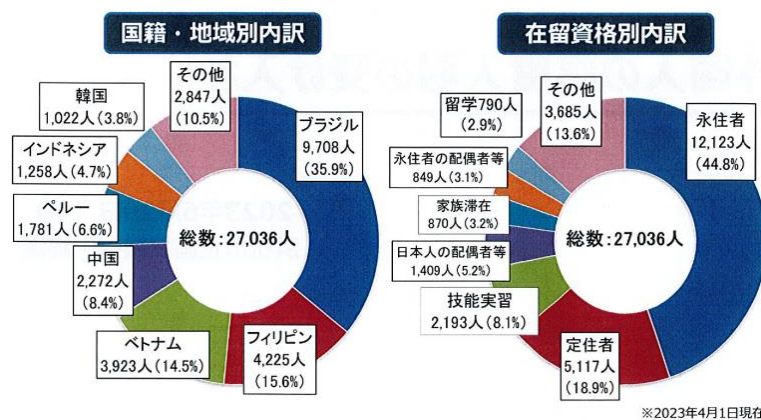
浜松市も例外ではなく、生産年齢人口は平成2年以降減少の一途をたどっています。外国人をいかにして迎え入れていくかは、浜松市も避けては通れないテーマになります。



出典：浜松市より

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/toshikei/city/tosike/masterplan/masterplan/1-2.html>

令和5年4月1日時点で浜松市には約27,000人の外国人市民が居住しており、特にブラジル人は9,708人で全国の都市で最多となっています。また、永住者や定住者などの長期滞在が可能な在留資格者が7割を超えています。



出典：浜松市 国際課より

(2) 風会議及び浜名湖ミナトリングでのアンケート結果について

外国人の多くは日本語を母国語としないため、言語の壁や異なる文化的バックグラウンドが存在します。そのためコミュニケーションや文化の違いによる誤解や摩擦が発生することがあります。その中で外国人移住者が増えることに関して、風会議及び浜名湖ミナトリングでの独自のアンケート結果は以下の通りでした。

▶設問① 浜松市に外国人移住者が増えることに賛成ですか？

⇒平均値は 3.35 (5 点満点中) でした。

- ・外国人が増えることに漠然とした不安がある
- ・言葉の壁があるのではないか
- ・どんどん増えて欲しい

▶設問② 日本語能力があり、日本の文化に理解のある外国人があなたの会社に就職するとしたら賛成ですか？

⇒平均値は 3.97 で、賛成する意見が強いことが分かります。

- ・日本語能力が高ければ高いほどコミュニケーションが取りやすいと思う

▶設問③ 外国人の就職希望者と浜松市の企業を繋げるために何が必要と思いますか？

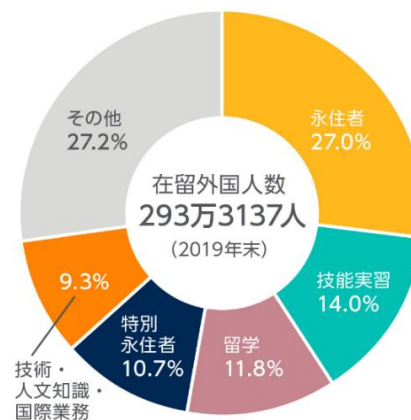
- ・コミュニケーションが一番重要
- ・相互理解
- ・外国人社員の日本のマナーや常識の理解
- ・日本人社員の外国人への理解

2. 着目したポイント及びその理由

(1) 在留外国人の在留資格について

日本には以下のような在留資格の外国人が在留しています。割合は右グラフの通りです。

- ・ 永住者
- ・ 技能実習
- ・ 留学
- ・ 特別永住者
- ・ 技能・人文知識・国際業務



出典: 出入国在留管理庁「令和元年末現在における在留外国人数について」(2020年3月27日)

(2) 外国人材の日本語レベルについて

外国人材が増えることに不安を抱く人が一定数いる中、日本語能力が高い外国人材の就職には比較的高い需要がある事が分かりました。今回は永住者、技能実習生に次ぐ割合の留学生に着目をしました。

留学生の中にも諸外国から直接専門学校や大学、大学院に進学する学生もいれば、日本語教育機関にてまず日本語及び日本の文化教育を受けたのちに、専門学校や大学、大学院に進学する学生もいます。前者に比べ、後者は日本語レベルも高く、日本の文化に対する理解度も高い傾向にあります。

外国人材の代表格である「技能実習生」に求める日本語レベルはN4とされていますが、日本語教育機関を卒業し、その後進学した留学生は平均N2~3の日本語能力があり、日本人と十分なコミュニケーションをとることが出来ます。

難	レベル	「読む」「聞く」の問題を通して、各レベルの認定の目安が設定されています。
	N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる (ネイティブレベル)
	N2	日常的に使われる日本語の理解に加え、ビジネスで使う言葉などもある程度理解することができる (ビジネスレベル)
	N3	日常的な場面で使われる言葉のある程度理解することができる (日常会話レベル)
	N4	基本的な日本語を理解することができる (初心者~日常会話レベル)
易	N5	基本的な日本語のある程度理解することができる (初心者レベル)

(3) 在留資格について

一方で外国人が日本で働くためには在留資格(ビザ)の取得が必要であり、在留資格にはそれぞれ有効期間が定められています。

外国人労働者としての大きな割合を占める技能実習生の在留資格は「技能実習ビザ」となり、雇用期間は通常3年(最大5年)です。3年の雇用期間の場合、企業側としてはようやく会社の戦力になってきたところで帰国させなくてはなりません。また職種も特定の職種に限られており、社内で自由に部署異動を行う事が出来ない等の制限もあります。

対して、日本での専門学校・大学を卒業、または自国で大学を卒業した外国人はその専門性を生かした「技術・人文知識・国際業務ビザ」（以下：技人国ビザ）での就労が可能になり、更新することで在留期間の上限がなくなります。

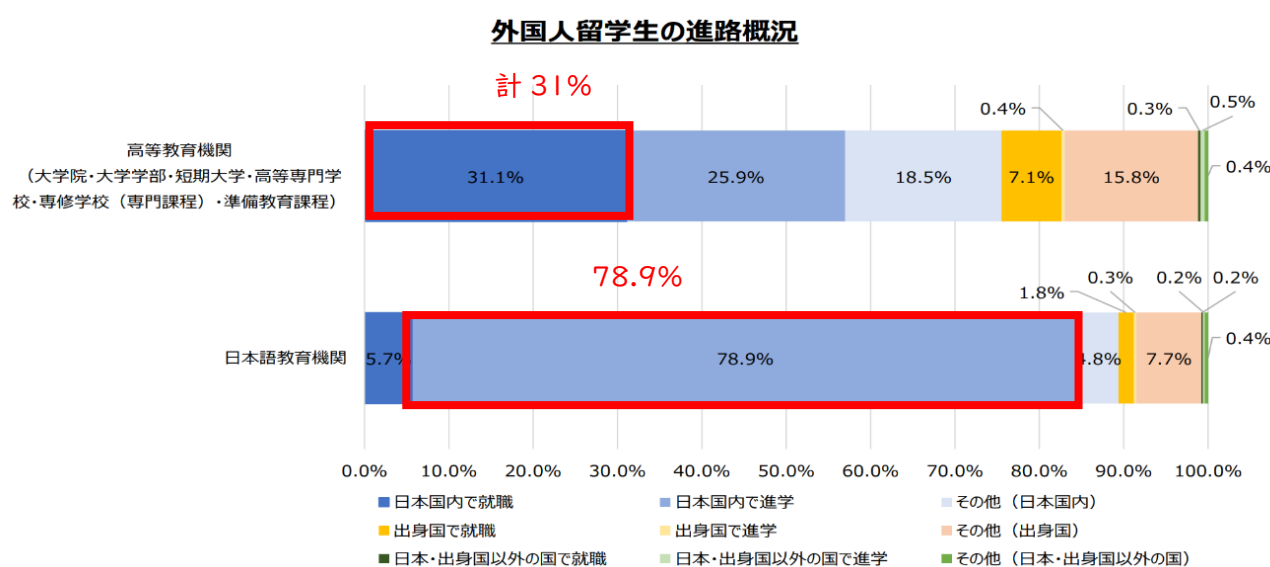
技能実習生ビザと技人国ビザの主な違いは、従事する業務範囲です。例えばホテル・宿泊業では、技能実習生ビザで従事できる業務は、ベッドメイキングなどの単純作業が中心になります。技人国ビザの場合は、フロント業務や事務職やマネジメントなどの専門性を生かした幅広い業務範囲で雇用することができます。また介護福祉士などの専門性をもった資格を取得することでも技人国ビザを取得することができます。

	技人国ビザ	技能実習生
期限	なし	3年～5年
学歴要件	あり	なし
試験の有無	なし	なし
仕事内容	専門的な仕事	単純作業のみ
給料水準	日本人と同水準	日本人と同水準
家族帯同	可能	不可
転職の可否	可能	不可
永住権の可否	可能	不可
職種の制限	なし	82職種のみ
日本の支援機関	不要	管理団体
海外の支援機関	不要	送り出し機関

技人国ビザが取得可能になると家族の帯同が認められるため、配偶者や子どもを日本に呼び、一緒に暮らすことができます。つまり外国人を技人国ビザで迎え入れることにより、その人数の何倍もの外国人を受け入れることが可能になります。

(4) 外国人留学生の進路状況について

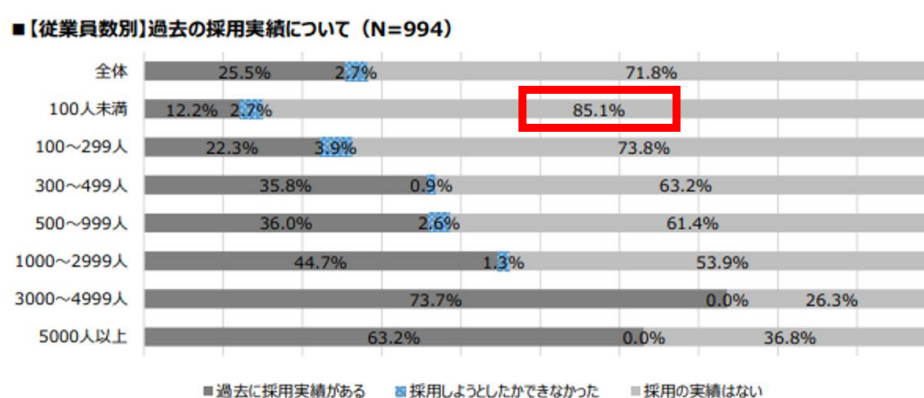
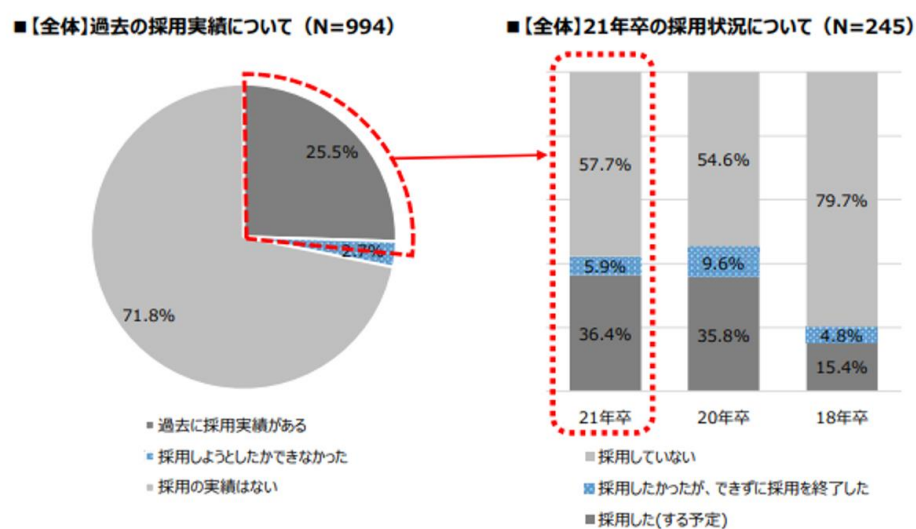
外国人留学生について現状その進路がどのようになっているか調査しました。日本語教育機関を卒業した留学生の進路状況を見ると、78.9%の外国人が日本での進学をしています。また高等教育機関（大学院・大学学部・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）・準備教育課程）を卒業した留学生の進路は全国平均で下記グラフの通り、日本国内での就職が31.1%となっています。日本語教育機関に通っている段階から日本での就職を支援することで、日本語能力が高く日本への文化理解の高い学生に対して浜松市の企業をPRすることができます。結果として就職・定住に結び付ける事ができれば、浜松市の人口増に結び付けることが可能であると考えました。



出典：内閣官房

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/sozo_mirai_wg/dai6/siryou3.pdf

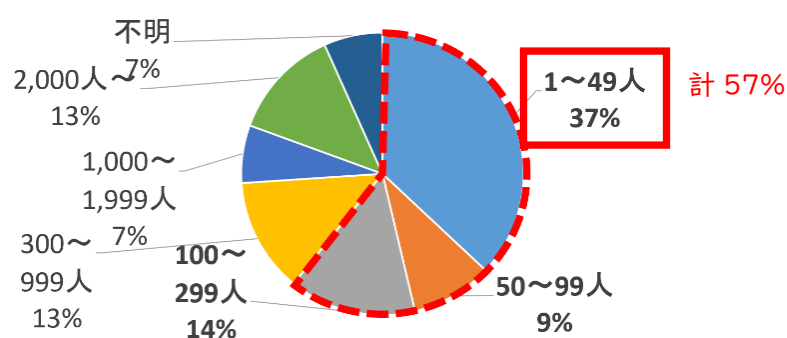
企業の外国人留学生の採用状況も調査しました。株式会社マイナビの調査によると過去に留学生の採用実績があると答えた企業は全体の25.5%でした。ここ数年で採用実績企業が増加したことが伺えますが、従業員別では「100



人未満」の企業では85.1%が今まで一度も採用実績がないことがわかります。

出典: Copyright (C) 2021 Mynavi Corporation

では実際に日本にいる外国人留学生の多くが大企業に就職するかというところではありません。57%の留学生の就職先は300人未満の中小企業となります。さらには全体の1/3は50人以下の企業となっています。



出典: 2022- HisanoHori_All Rights Reserved

以上のことから、大企業は留学生向けの採用活動を積極的に行っていますが、実際の就職先は中小企業が大半という大きな乖離が存在する事が分かります。

3. 課題の洗い出しと解決のためのストーリー

(1) 現状まとめ

- ・ 浜松市では生産年齢人口が減少の一途をたどっており、外国人材の活用は急務である。
- ・ 大企業は留学生の採用活動を積極的に行っているが、中小企業は言葉や文化の壁を考え行動できていない
- ・ 外国人が増える事に対しては様々な意見があり、全体的なコンセンサスが取れていない
- ・ 様々な在留資格があり複雑である。

(2) 課題

- ・ 外国人の「日本語能力」及び「日本文化への理解」が日本人との共生において重要である
- ・ 日本人としても外国人の文化を含めた相互理解が重要である
- ・ 専門性を学んだ人材が「技人国ビザ」を取得する事が出来れば永続的に滞在することが出来る

(3) 仮説

- ・ お互いを知る機会が不足しているのではないか
- ・ 日本語能力だけでなく日本文化への理解度の高い留学生をもっと育てていくべきではないか

浜松市には「浜松日本語学院」「湘南日本語学園」「オイスカ開発教育専門学校」があり、2023年現在、合計460人の日本語を学ぶ留学生がいます。ヒアリングをした結果によると、この3校を卒業した留学生は平均してN3程度の日本語能力を持っており、その大部分が浜松市内の専門学校に進学しています。しっかりとした日本語教育を受けていることもあり、高等教育課程の卒業時にはN2程度の日本語能力を身に付け、在学中にそれぞれ資格を取得することで「技人国ビザ」を取得し就職しています。

一方で就職先として浜松市には魅力のある中小企業が多くありますが、留学生が浜松の中小企業を知る、または、企業が日本語スキルを持った留学生の存在を知る機会が圧倒的に少ない状況です。中小企業が留学生雇用に関して計画・実行できない理由は多岐にわたると考えられますが、その多くは外国人に対して理解が不足している、そもそも外国人という選択肢がないなどがあげられると考えられます。この対策として、中小企業がいかんして留学生雇用に関して関心を持ち、採用活動をしていくか、また企業側が外国人留学生雇用に対する土壌を浜松市全体でどのように創造していくかが重要なポイントになると考えます。

4. 提言3

以上を踏まえ、私たちは外国人留学生と中小企業を結び付ける取り組みとして

「外国人留学生支援 No.1都市宣言」

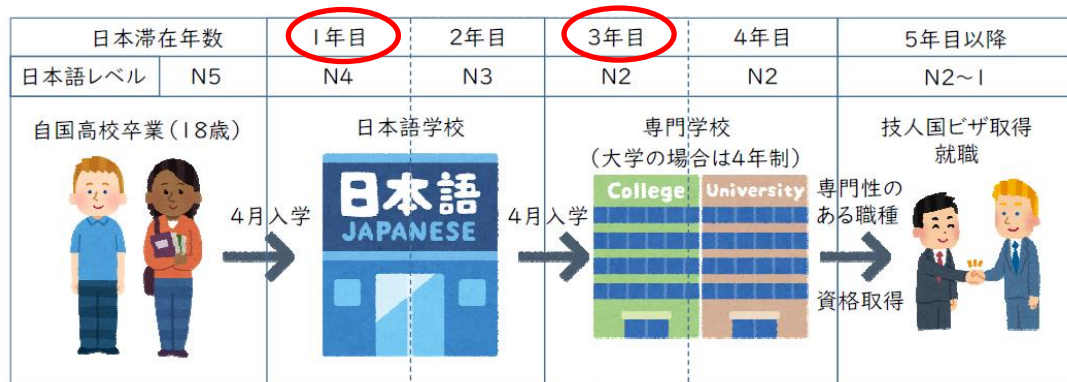
を提言します。

本提言は、企業と留学生を繋げるためのマッチング機会創出と日本語を学ぶ留学生のサポートを目的としています。浜松市が日本の他地域より卒業後の就職率が高い状況を作ることができれば、日本全国、さらには海外から、より多くの留学生を浜松市へ迎え入れることができるようになります。日本語能力が高く、日本の文化への理解も高い留学生を育成し、企業側の不安を解消し雇用に結びつける好循環を目指します。

① 「留学生社会科見学ツアー」

浜松市に留学生を定住させるため最も重要となる「企業と留学生を繋げる施策」として、浜松市で活躍する中小企業のPRの場としての企業展の開催を提案します。この企業展に浜松市内の留学生を招待する「留学生社会科見学ツアー」合わせて実施します。まずは浜松市内の留学生を対象に実施し、その後規模を広げて近隣都市の留学生、日本中の留学生の招待に規模を広げていく事で、留学生に対して浜松市の企業の魅力を伝える効果があると考えます。

以下の図は日本語学校に入学した留学生のモデルケースになりますが、社会科見学ツアーは在学時期により2回の開催が効果的だと考えます。



1回目は来日1年目の留学生を対象とします。来日後間もない留学生は、卒業後の具体的な進路をまだイメージできていません。来日直後の段階で企業展に参加する事で、浜松にどのような企業や職種があるかを知ることができ、実際に働くイメージを持ってもらう事ができると考えます。企業に就職する為に必要な高等教育や将来技人国ビザを取得する為に必要な資格が何かを学ぶ機会を作る必要があると考えます。

2回目は、来日3年目の留学生を対象とし、留学生が実際に働く企業を探すマッチングイベントをイメージします。留学生に対しては就職活動への知見を広げ、またモチベーションを高める機会とし、企業側に対しては実際に留学生と触れ合う事で、留学生雇用への関心を高める機会とします。この2回の社会科見学ツアーは、お互いを知るきっかけとなり、留学生の就職者数の増加につながると考えます。またこの社会科見学ツアーでは企業側はどのような人材であれば留学生の雇用を検討するか、浜松市や学校側に現場の声を届けることとし、外国人受け入れに対して『留学生⇄学校⇄浜松市⇄企業』の一本の流れをつくることに繋がります。

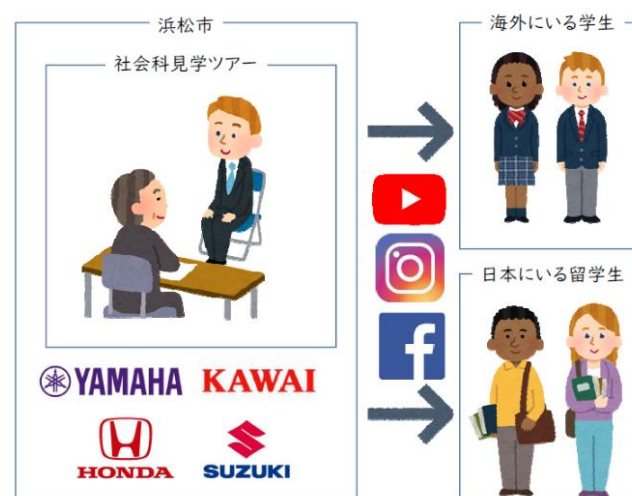
また、現在浜松市では次表のようなビジネスマッチング・企業展示会が行われています。

イベント名	ビジネス マッチングフェア in Hamamatsu	浜松YEG EXPO	商談マルシェ
主催者	浜松いわた信用金庫	浜松商工会議所 青年部	守成クラブ浜松
直近開催年	2023年（16回）	2023年（初）	2023年（5回）
出展企業数 （直近開催時）	約200企業・団体	約40社	約15社

上記の企業展は外国人留学生を対象にしていませんが、今後、浜松市が後援となり浜松市及び日本中の留学生を招待していただきたいと考えます。社会科見学ツアーに参加した留学生は、まだ上手に企業側と交流ができない方もいると考えられますが、このような機会は留学生のコミュニケーションの向上に繋がると考えます。

この留学生社会科見学ツアーの取組はSNSやYouTubeなどで積極的に海外に発信することが重要だと考えます。その際には浜松市には「YAMAHA」や「SUZUKI」があること、またとても住みやすい気候だということも合わせて周知することが重要となります。海外に住んでいる外国人に対して大企業のある都市であることをきっかけに浜松市のことを知っていただく機会とすることができます。

この提案により、浜松市の留学生は高い就職率を達成する事ができ、「外国人留学生の迎え入れ先」として日本中の留学生や、世界の日本への留学を検討している人々にアピールすることができます。浜松市の企業に関しても留学生を迎え入れる土壌が形成され、結果として外国人留学生の増加や卒業後の浜松市での就職、定住が増えていくと考えます。



② 「留学生修学サポート」

続いて留学生への修学サポートを提案します。具体的には、留学生への補助（住居サポート）と奨学金返還支援制度です。

留学生は学費や生活費の為に、どの学生もアルバイトをして生活費を稼いでいます。アルバイトをしているとどうしても勉強が疎かになり、日本語教育を十分に出来ない実情があります。まず住居サポートですが、浜松市内の借家（空家）を浜松市が借上げ、浜松市に在住している留学生に安価で提供することをお願いしたいと考えます。この施策により生活費への不安が軽減し、結果として勉強に励むことが出来るため、高い日本語能力を持った留学生を浜松市で育てることが出来ます。ただ補助には一定の条件を必要とし、一定の条件を満たさない場合は補助を打ち切ることも考慮します。日本語検定試験は毎年6月に実施されています。例えば4月からの入居初年度は、日本語検定能力N4、2年目はN3、3年目はN2合格を補助の条件とする等の制度設計が必要と考えます。（日本語検定レベルは前頁参照）

そして奨学金制度ですが、浜松市が現在行っている日本人向けの奨学金返還支援事業の取り組みをモデルとします。本制度は日本人学生の奨学金を受けた人を対象に、『大学等を卒業後に県内認定企業に正規雇用で就業した場合、2年目から4年目に最大54万円を補助』という取り組みです。この施策を基に、『浜松市の高等教育学校（専門学校・大学）を卒業した留学生を対象に、市内認定企業での正規雇用で就業し、5年間継続して勤務する、そして日本語検定試験においてNIを取得した人に日本人と同程度の最大54万円を補助』という制度を制定していただきたいです。

留学生社会科見学ツアー実証実験

2023年10月9日(月)、浜松市ギャラリーモール「ソラモ」にて開催された浜松 YEG 主催の『YEG EXPO2023』にて、本提言の実証実験を行いました。

YEG EXPO2023は、飲食店や物販、サービス業など様々な業種業態の浜松 YEG メンバー46社による企業展示会です。実証実験の内容としては、YEG EXPO 2023にて浜松市にいる外国人留学生に出展ブースを訪問していただき、様々な企業の事業内容を知っていただくというものです。この実証実験では、高度外国人材の浜松企業への就労機会創出ならびに生活サポートに至るまで総合的に支援する機関である e コモンズ(浜松外国人材定着サポート有限責任事業組合)様のご協力を得て実施しました。1区画のブース(椅子4個と長テーブル1台、e コモンズ様によるパネル設置)を設置し、浜松 YEG メンバーによる留学生への各ブースへのアテンドを実施したほか、出展企業に向けた e コモンズ様による外国人雇用と就労へのアドバイスを行いました。



今回の実証実験の目的として、留学生側には実際に販売する商品・サービスに触れることで浜松の企業での就労意識、モチベーションを高めていただく点と、今まで知らなかった様々な業種業態の企業を知ること、そして新たな就業機会を作ることを目的としました。

また出展企業に対して、外国人雇用による企業側のメリットや、今後の外国人雇用の展望やヒアリングも実施しました。

10時からの開場と同時に留学生が来場し、総勢36人の外国人留学生に参加いただくことができました。

【案内先】

・浜松日本語学院 ・湘南日本語学園浜松校 ・静岡大学 ・静岡文化芸術大学 ・豊橋技術科学大学



撮影:浜松商工会議所青年部主催の『YEG EXPO2023』にて

▽出展企業の反応・ヒアリング結果

出展企業の多くが、このイベントを通じて初めて外国人雇用を真剣に考える機会を得ることができました。以前は外国人雇用を検討したことがないという企業が少なくなかったものの、留学生との直接的な交流を経験したことで、その可能性を見出すきっかけとなりました。出展企業の中には、今後海外進出を目指す中で外国人営業職の採用を検討する企業も現れ、留学生の熱意や潜在能力に触れることで外国人雇用に対する前向きな姿勢へと変化が見られました。

また、後日留学生からビザの相談があった企業もあり、企業と外国人とのマッチングにも一定の効果があったと考えています。

一方で外国人雇用についてまだ積極的に考えるのは難しいと答える企業もありました。求めるビジネススキルや語学レベル、外国人に対する自社社員の理解等、自社にフィットするのかが不透明なことが多いようです。採用することに課題を感じた企業の中にも、外国人の活躍によってビジネスの可能性がどのように広がるか、改めて自分のビジネスを見つめ直す企業も出てきています。

今回のイベントは、出展企業に外国人雇用の意義と可能性を認識させる効果があったと言えます。今後は企業が外国人雇用についてより具体的な知識を得るための支援体制を整えることが必要です。留学生と企業がお互いのニーズを理解し、相互の利益となる雇用関係を築く事が重要だと考えます。

▽外国人留学生の反応・ヒアリング結果

どの外国人留学生も熱心にブースで話を聞いており、とても満足度は高く、就職活動に向けてモチベーションがあがったようです。ヒアリングの中での大きな気づきとして、我々が想定している以上に留学生が浜松への愛着を持っており、是非浜松市内に就職したいという希望を持っていることでした。その中で語学を生かしてホテルや旅館での接客やマネジメント業務での就職を目指している学生がいましたが、浜松市の宿泊施設での外国人雇用の事例はまだ少なく、今回の様な機会では是非企業と繋がりたいとの声がありました。また留学生が一般の企業展に参加する事は非常にハードルが高い事も分かりました。最初の一步を同行してくれる先生の存在がとても大きいようでした。学校側の意見としても是非今後も授業の一環としてこうしたイベントに参加したいとの声がありました。

本提言の留学生社会科見学ツアーはYEG EXPOでの実証実験により、とても効果的な施策であることがわかりました。企業展に出展するような熱心な企業と外国人留学生が交流する機会が増えていくことは、双方に大きなメリットがあると考えます。小さな交流の積み重ねが少しずつ新たな雇用機会を創造し、浜松市の外国人受け入れへ向けて大きな力になります。

外国人の迎え入れは避けては通れない課題です。様々な文化や言語に対する相互理解がとても重要になります。日本の生産労働人口の減少に伴い、外国人に目を向け、我々がその対応に向けて「変化」することが求められます。その我々の変化の中で、外国人を「外国人材」としてみるのではなく、「外国人財」として共に生活し日本を良くしていく考え方が必要になります。

第4章
まとめ

まとめ

浜松市が令和2年に発表した「やらまいか人口ビジョン」の中で、浜松市の将来的な人口減について問題提起されています。この中で浜松市の人口は2040年には70万人を下回り、2060年には60万人を下回る統計結果が出ており、今後就業者の減少・地域経済の縮小や現役世代の負担増大が懸念されると記載されています。

2040年は我々にとっては定年を迎えておらず、とても近い現実的な未来です。また2060年に関しても現役は退いている可能性が高いですが、我々の子どもたち、その下の世代の事を考えると、できる限り早く対策を立てることは必要な事と考えました。

本来人口増とは国単位で考えるべき問題であり、根本的には出生率を上げるもしくは移民を受け入れる等の抜本的対策が必要であると理解していますが、浜松市単位で何ができるかを青年経済人の視点を交えながら、一年間調査研究を行いました。

2023年度浜松 YEG、提言委員会は『人口増加に繋がるための施策』を提言テーマとしました。

以下の観点より人口増加に繋がる提言を行いました。

- ① 防潮堤を活用した交流人口の増加（防潮堤マップの作成、聖地化、インフラ整備）
- ② 若年層（大学卒業後）のUターン増加による移住人口の増加（浜松ローカル版キツザニア、母校に集まれ！企業説明会！）
- ③ 外国人（留学生）の就職支援（留学生支援 NOI 都市宣言）

① 防潮堤を活用した交流人口の増加

防潮堤について市民には一定の認知度はありますが、市民でさえも実際に訪れた人は少なく、駐車場の位置等全体の概要を知っている人が少ない事が分かりました。そこで防潮堤へのアクセス方法や防潮堤の魅力について発信が必要と考えます。

提言 1-1「防潮堤マップの作成&ウォーキング推進」

提言 1-2「新たな門出・再出発として聖地化」

提言 1-3「舞阪表浜東駐車場エリアのインフラ整備」

防潮堤について発信するためのマップ案を作成しました。このようなマップを配布する事は防潮堤の認知度向上に繋がると考えます。

また防潮堤に来る目的を作る事ができれば訪問者が増えると考えます。防潮堤とは本来、地上に逆流してくる波を防ぐ、波を断つ、という意味をもつ建造物です。本来防潮堤がもつ意味合いと、「今切口」というユニークな地名をかけあわせて、「過去を断ち切る場所」という意味を持たせて聖地化する事を提案します。魅力のあるスポットとしてPRしていくことで、観光資源の目玉のひとつになり得ると考えます。

その他、浜松市としてウォーキングイベントを企画する事も多くの交流人口を呼び込む仕掛けづくりになると考えます。浜松市が令和4年にリリースした「はままつ健幸クラブ」アプリを使う事で周知も可能になると考えます。例えば浜松市舞浜表浜東駐車場をスタートに、西端にて折り返して駐車場まで戻る4kmコースや、さらに舗装された部分の東端まで進み折り返す8kmコースを設定でき、とてもきれいな景色を見ながらの健康増進ウォーキングが企画出来ると思います。まずは浜松市民が認知し、さらには市外、県外の知り合いに伝えていく流れで交流人口を増やしていきたいと考えます。

以下のようなインフラの整備も併せて提案します。

- ・トイレ、水道の設置 ・ごみ箱、自動販売機の設置
- ・観光地化に向けたブランディングとしてモニュメントの設置



(写真:左) 金の家康君像 (写真:中央) 伊豆市・恋人岬の愛を呼ぶ鐘 (画像:右) 防潮堤 MAP QR コード

②若年層(大学卒業後)のUターン増加による移住人口増加

浜松市で育った学生の多くは、進学などの理由で市外や県外へと流出する傾向があります。彼らの就職活動は、主に進学先の地域内の企業を中心に行われることが多いです。浜松市内での就職を希望する人も一定数いるものの、十分な情報が得られずに具体的な行動に移すのが難しい状況です。一方で、浜松市内の企業も人手不足を感じており、若い労働力の確保が急務となっています。このため、幼い頃から浜松市に魅力的な企業があることを伝え、地元浜松市での就職のきっかけを作る事が重要だと考えられます。

提言 2-1「浜松ローカル版キッズニア」

キッズニアとは世界各国にて展開されている「子ども向け職業体験型テーマパーク」です。子どもたちは自分自身で「仕事を体験する」ということを通じて職種、仕事内容、企業への理解や親近感を持つ貴重な経験となります。浜松市オリジナルの「子ども向け職業体験テーマパーク」を開催することで、地元企業について関心を持つ事ができると考えました。主なターゲットは小中学生とします。浜松市をあげた継続事業となることが重要だと考えます。



ターニングポイント of ハママツノミライ

提言 2-2「母校に集まれ!企業説明会!」

浜松市出身の現役大学生に向け、「母校」を舞台にした「企業説明会」を行います。

浜松市には優良で元気な中小企業が数多く存在します。ただ認知度が高い企業は別として、中小企業のほとんどが就職活動を行う大学生に認知されていない実情があります。

東京、大阪、名古屋等といった都市部でなくても、大企業でなくても、魅力的な地元の中小企業で活躍できるチャンスは多いという想いのもと、浜松市出身の現役大学生に向けた「母校」を舞台にした「企業説明会」の開催を提案します。馴染みのある仲間、環境、地域で浜松市の企業の良さを再発見してもらいたいと考えます。

現在の企業説明会は主に大学単位か業種単位、もしくは地域単位で行われるものがほとんどです。浜松市は卒業高校でのつながりが強い地域なため、出身高校単位での企業説明会は参加者を集めやすいと考えます。

また在校生も参加可とし、高校生の早い段階より、浜松市の企業を知ることによって郷土愛を育ててもらい、在校生にとっては卒業生と間近に触れる事で、数年後の自分自身を想像することができる機会としたいと考えます。

- ・ 浜松市内の高校を卒業した主に大学2年生を対象とした「母校」での合同企業説明会の開催
- ・ 自社が取り組む仕事の説明、職業講和、ワークショップ、インターンシップの案内

「母校に集まれ!企業説明会!」は、2年程度で結果が見えるため即効性があると考えます。まずは既にヒアリングをさせていただいた静岡県立浜松西高校にて実施させていただき、ぜひ浜松市、浜松商工会議所が一体となって事業を継続したいと考えます。

③留学生の受け入れ増加による移住人口の増加

人口減少に伴う生産年齢人口は減少の一途を辿っており、外国人労働者の活用は浜松市も避けては通れないテーマになります。いかにして受け入れていくかという考え方ではなく、いかにして日本、及び浜松市が選ばれる都市になっていくかは、今後の重要なテーマと考えます。

提言 3「外国人留学生支援 NO1 都市宣言」

留学生が浜松市の中小企業を知る、または、企業が留学生を知る機会が圧倒的に少ない状況にあります。

具体的な施策として浜松市で開催されているビジネスマッチングや、企業展示会へ留学生を招待する「留学生社会科学見学ツアー」を提言します。留学生の就職活動への知見を広げ、同時に企業が留学生雇用に関心を持つ機会を増やすことで、お互いを知るきっかけとなり、留学生の就職者数の増加につながると考えます。

留学生から選ばれる都市になるため、浜松市としても留学生に対する就学サポートをお願いしたいと考えます。具体的には、留学生への補助（住居サポート）と奨学金返還支援制度です。

住居サポートは、浜松市内の借家（空家）を浜松市が借上げ、浜松市に在住している留学生に安価で提供することをお願いしたいと考えます。補助には一定の条件を必要とし、例えば日本語検定試験の結果により補助を打ち切ることにも考慮します。

また奨学金返還支援制度は現在浜松市が日本人向けに行っている制度を参考に、『浜松市の高等教育学校（専門学校・大学）を卒業した留学生を対象に、市内認定企業での正規雇用で就業し、5年間継続して勤務する、そして日本語検定試験においてNIを取得した人に日本人と同程度の最大54万円を補助』という制度を制定していただきたいです。

浜松市ならではの取り組みをすることで、日本への留学を検討している人々に浜松市をアピールすることができると考えます。

全体を通してどの案も実現可能性が高く、即効性が高い提言となったと感じています。今回提言書としてまとめた以外にも『高校卒業時の魅力的な受け皿としての大学の新設』や『子育て支援の充実』、『浜名湖での潮干狩りの復活』等、様々な路線について調査・研究を行いました。1年では議論の収束までは至りませんでした。人口の増加に関しては他にも色々な観点よりアプローチがあると思います。

今年度は6月の風会議から始まり、特に浜松市様や浜松商工会議所親会様との打ち合わせが多かったと感じます。三者が同じ方向を向いて同じ施策を進めていく事が重要だと改めて感じました。提言発表会や提言書作成がゴールではなく、そこに至るまでの様々な意見出し、意見交換こそが未来に繋がる財産だと感じました。

浜松市をより良くすると考えた時に人口増は避けては通れないテーマです。浜松市としても人口増に関しては今年度キックオフ、来年度から正式な施策を行う予定と伺っています。本年度の意見交換の結果が少しでも反映されることを願うと共に、これからも協力しながら様々な施策を実行できればと考えます。

最後に我々浜松 YEG には約250人の会員がいます。会員がそれぞれ自社を成長発展させ、一人でも多くの雇用を生み出し浜松市の人口増、発展に寄与する事は我々青年経済人に最も求められている事と理解しております。こちらについては今後も『先導者としての気概を持って』各会員、各企業として全力で取り組んでまいります。

本提言書の作成においてご協力いただいた全ての皆様にこの場を借りて御礼を申し上げます。



浜松商工会議所青年部
提言委員会委員長 前嶋 宏明

あしがき

2023 年、アフターコロナも見える中、未だコロナの影響は依然として世界中に影響を及ぼしており、日本でも感染拡大の防止、ワクチン接種などの対策が継続されてきました。

それに合わせ我々が住むこの浜松にも、潜在的な社会課題である、人口減少や高齢化、地域間格差の拡大などへの対策が日々模索され、地方創生や働き方改革など、これらの課題に対処するための政策や取り組みが日々行われています。

そして浜松 YEG におきましては、活動を長く制限してきた昨年度までとは異なり、2023 年度は全ての活動を制限することなく、様々な事業に取り組んでまいりました。

今年度の提言書作成に関わる提言委員会では、様々な現状分析から、慎重に調査研修、実証実験を繰り返していただき、素晴らしい提言書を完成頂いたと思います。

浜松市における人口の増加や減少、流出人口の抑止など、極めて複雑な問題ではございますが、提言委員会一同が最も重視したのは、本提言書がいかに実現性が高く実行できるかという点だと感じます。

将来、本提言書が浜松市に対して有益なものとなる事を願います。

最後に、本提言書作成に一年間をかけた委員会メンバーの努力と、関わって頂いた全ての皆様へ、提言委員会担当副会長として感謝申し上げます。



浜松商工会議所青年部
担当副会長 柴田智行

【取材協力先一覧】敬称略 順不同

浜松日本語学院
一般社団法人グローバル人材サポート浜松
浜松未来総合専門学校
e コモンズ
国立大学法人静岡大学
公立大学法人静岡文化芸術大学
湘南日本語学園浜松校

公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
袋井市役所
岩手県 県土木整備部河川課

静岡県立浜松西高等学校
静岡県立浜松南高等学校
国立大学法人広島大学
四日市市 政策推進課
四日市商工会議所 商工振興課

浜松市
観光・シティープロモーション課 商業観光課 市民協働・地域政策課 健康増進課 企画調整部企画課
産業振興課 次世代育成課 教育総務課 国際課 スタートアップ推進課 農業水産課

静岡県
浜松土木事務所

浜松商工会議所

【2023 年度提言委員会メンバー】

担当副会長：柴田智行

委員長：前嶋宏明

副委員長：白井大士 松井大樹

運営幹事：稲垣公俊 井上大輝 大久保純 嶋俊輔

委員：浅野孝記 飯田晋介 池田峰生 伊藤 撰 宇津山博規 太田賢

大高旭 大橋賢作 落合時夫 小野大揮 勝山大敬 加藤隆康

金田尚熙 木村洋一 國枝大祐 湖東悦郎 後藤圭佑 後藤真和

小針陽一郎 近藤恵津子 佐野正武 嶋田翔二 新野純一 杉原勇樹

須田雄一郎 曾布川陽一 戸塚悠貴 鳥養晶子 永井裕生 中澤裕樹

野田滋丈 袴田久美子 開和弘 平野彰吾 松嶋清登 松本裕太

松山沙亜弥 峯野忍 守田佑介 矢野里佳 山崎靖晃 山田洋平

横田江梨子 和久田惣介

担当事務局：櫻井伸吾



【事務局】 本書に関するお問合せは下記までお願いいたします。
浜松商工会議所 青年部事務局
〒432-8501 静岡県浜松市中央区東伊場2丁目7番1号
TEL:053-452-1111 FAX:053-452-6685
青年部Email yeg@hamamatsu-cci.or.jp
青年部WEBサイト <http://www.hyeg.jp/>
